

簡単な手技

及川ふみ

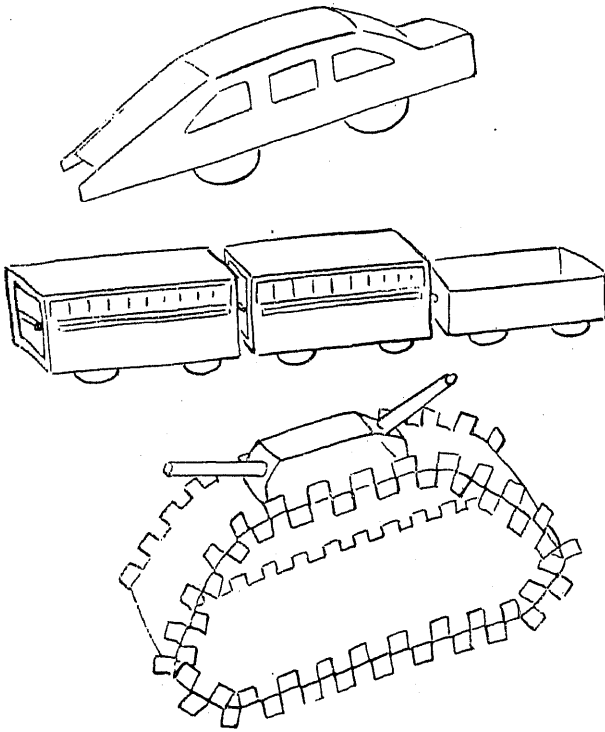
幼児たちが自分自身だけで、思ふ様に、紙を切り、糊をつけ、色を塗つて物を作つてゐる様子を眺めてゐるこ、ほんこに一心不乱で、これこそお仕事遊びが完全にこけ合つてしまつてゐるのである。幼稚園の手技もこまで来るこ、幼稚園で手技をする意味も充分に達せられてゐるわけであつて、幼児もほんこに楽しく、面白く自分の遊びこして遊んで居るのである。

しかしながら幼児が自分の遊びこして、手技を充分に味ふこころまで導くには、なかなか容易の事ではない。保姆の方で、その指導の方法に充分の研究こ、自分自身にもその技の熟練こが大切であるこいふ事はいふまでもない。

大體平常幼児たちこ一緒に遊んで居るものこして、手技の種類や、之に入用な材料杯に就ても適不適は略ぼ分るものであるが、いつも幼児たちの要求こびつたりこするものばかり選ばれるこも限

らない様である。

幼児達の手技はここまでも簡單なものであつてほしい。それにつけても材料は幼児に取扱のやさしいものがよい。その質が丈夫で、無器用に使つても、破損する事のないものがよい。又その大きさ、分量こいふ事も大事な事である。在來の手技の材料についても、こんなここから自然こそこ



に優劣の差がついて来るものである。

こんな事から古端書を材料とした手技は幼児たちに大いに歓迎された。これは始めは、材料を節約するさいふ事からはじめてみた事であるが作るものが簡單であり、その大きさが手頃であつた事が最もよい材料となつた様である。

はじめ端書で、タンク、花カゴ、乳母車、舟、家、動物など數種類のもの、幼児たちの前で作つて見た。自分の作るのを見てゐたものは、傍にある端書で真似て作り始めた。自分は一々説明するさいふ風でもなくたゞ一緒に作つてゐた。時々こゝはさうするの位の質問に應じる程度であつたが、次々見ただけで簡單に作れるのでよろこんだ。

次の日から各児が家庭から古端書をもらつて来て、次々種々様々なるものを作り出した。タンクなども自分が作つて見せたものよりも、はるかによいものが出来る。自動車も出来て来る、汽車も作るさいふ様で製作される種類も多くなり、形などもほんごにうがつたものが出来て幼児も楽しみ自分もうれしくなつた。幼稚園の端書も家庭の端書も大方便ひつくす位澤山にいろ／＼のものが出来た。

官製はがきは紙の質がよいので曲げたり、折つたりしても決して裂ける事がない。インクや墨で書いた文字のあきも、クレヨンや、繪具や墨でぬりつづせば綺麗になつて古物を利用した様にも見えない。

幼児たちが自分だけで作つた作品の二三をあげて見ることにする。

幼稚園の水

杉山米子

○初水

「先生ホラー！」「いゝものよオー」風つめた朝である。後の焚火が樂しみの落葉かきの熊手をやすめて、聲に振向く、二三人の男の子が、もみぢの手を拜む様に顔の前に合せ、然も大切なものを其の中へ入れて居る様にかばひ乍ら、一寸小腰をかゞめてかゞで走つて来るのである。

うれしくて／＼たまらない様に遠くから白い息を見せて叫び乍ら、……其の氣持が自然に私の胸へ樂しく流れ込んで来て、「なーに？」「思はず走りよる。」「ほら、水。お池にあつたの」先づ一人が得意氣にバツミ手をあげる。半ば水になつた中に滑る様にキラリ光つた水！「まあ、本當に水ね、お池に張つて居たの？」「ウン、一杯い、ほら僕だつて……アラないやアー」今迄大事に合せて居た手をソット開いた子が、さも驚いた様子、否本當に驚いて、そして惜しくてたまらないと云つた氣持を語尾にひく。「まあお水になつて了つたのね、未だお池にあるかしら？」お池に行